

A 大学附属病院における看護師のキャリアに対する認知と看護実践能力との関連

キーワード：看護師 職務キャリア尺度 看護実践能力

○倉ヶ市絵美佳¹⁾・小松光代²⁾・大澤智美³⁾・中村尚美³⁾・和泉美枝²⁾・植松紗代²⁾・神澤暁子¹⁾・橋元春美³⁾・小城智圭子³⁾京都府立医科大学看護実践キャリア開発センター¹⁾京都府立医科大学医学部看護学科²⁾京都府立医科大学附属病院³⁾

【目的】

A 大学附属病院では、看護臨床能力の評価基準を看護実践能力、組織的役割遂行能力、教育研究能力におき、それぞれの能力の習得・向上を目指している。看護臨床能力の向上には、研修等の教育だけでなく、個人が看護臨床能力をどのように認識しているかが関係していると思われる。そこで、本研究では、看護師のキャリアに対する認知と、看護臨床能力の構成要素である看護実践能力との関連を検討する。

【方法】

1. 対象者：A 病院に勤務する看護師 648 名である。
2. 調査方法：自記式質問紙を配布し、回収箱にて回収した。
3. 調査内容：1) 属性：年齢、経験年数、2) 看護師の職務キャリア尺度 (以下、キャリア尺度) (石井、2005)：看護師の職務キャリア項目の重要度の認知を測定するものである。下位尺度「質の高い看護の実践と追求」17 項目、「対人関係の形成と調整」12 項目、「自己能力の開発」7 項目、「多様な経験の蓄積」7 項目で構成され、計 43 項目、5 段階評価で回答を求めた。高得点ほど重要度の認知が高い。この尺度は、経験年数や異動経験の有無などの要因によって作用されないように作成されている。3) 看護実践能力：a. 教育ニーズアセスメントツール (以下、教育ニーズ) (三浦、2005)、35 項目 4 段階評価、低得点ほど教育の必要性が低い。b. 看護実践の卓越性尺度 (以下、卓越性) (亀岡、2005)、35 項目 5 段階評価、高得点ほど卓越性が高い。
4. 倫理的配慮：依頼文書に研究趣旨と個人情報保護に関する内容を記載し、調査と結果公表の同意を得た。
5. 分析方法：属性および全ての調査項目について単純集計を行った。キャリア尺度の下位尺度の得点 75% タイル以上の高得点群 (高群) と 25% タイル以下の低得点群 (低群) との 2 群に分け、Mann-Whitney の U 検定を行った。分析には PASW Statistics18 を使用した。

【結果】

1. 回収率と属性：648 名に調査票を配布し 530 名 (回収率 81.8%) より回答を得、そのうち同意の得られた 481 名 (有効回答率 74.2%) を分析対象とした。対象者の平均年齢は、36.1±10.0 歳であった。看護師経験年数の平均は、13.2±10.0 年であった。

2. 単純集計：キャリア尺度の下位尺度の合計得点の平均値は、「質の高い看護の実践と追求」74.4±8.6 点、「対人関係の形成と調整」52.5±6.6 点、「自己能力の開発」23.3±5.6 点、「多様な経験の蓄積」25.7±4.8 点であった。教育ニーズの合計得点の平均値は、79.1±14.9 点、卓越性の合計得点の平均値は、125.5±23.3 点であった。

3. キャリア尺度の下位尺度と属性、教育ニーズ、卓越性との関連：平均年齢は「多様な経験の蓄積」高群 34.7±9.4 歳、低群 38.4±10.3 歳で有意差があった ($p<.01$)。他の下位尺度では、有意差はなかった。経験年数は、全ての下位尺度で差はなかった。教育ニーズは「質の高い看護の実践と追求」高群 74.2±16.6 点、低群 83.0±13.3 点で有意差が認められた ($p<.001$)。他の下位尺度でも有意差を認めた (全て $p<.001$)。卓越性は「質の高い看護の実践と追求」で高群 130.2±26.2 点、低群 120.6±21.8 点で有意差があり ($p<.01$)、「対人関係の形成と調整」「自己能力の開発」「多様な経験の蓄積」でも同様に高群が低群より高く有意差があった (全て $p<.001$)。

【考察】

看護師のキャリアに対する認知が高いことは、教育の必要性や看護実践の質に関連することが示唆された。「質の高い看護の実践と追求」「対人関係の形成と調整」「自己能力の開発」は、A 病院の看護臨床能力の 3 つの構成要素である看護実践能力、組織的役割遂行能力、教育研究能力と相通ずる。それぞれの能力の習得、向上の必要性を個々が認識することが看護臨床能力の向上につながると期待できる。「多様な経験の蓄積」が平均年齢で差があった理由は、今後、検討予定である。本報告は文部科学省平成 21 年度助成事業「看護職キャリアシステム構築プラン」の一部である。

【文献】

- 1) 石井京子, 他：看護師の職務キャリア尺度の作成と信頼性および妥当性の検討, 日本看護研究学会雑誌, 28(2), 21-30, 2005.
- 2) 舟島なをみ, 三浦弘恵：看護実践・教育のための測定用具ファイル開発過程から活用の実際まで, 医学書院, 259-269, 2010.
- 3) 舟島なをみ, 亀岡智美：看護実践・教育のための測定用具ファイル開発過程から活用の実際まで, 医学書院, 63-73, 2010.